

「ねえ、こつちが本題なんだけど。情報を共有しましょうよ」

「他校の代表小隊の情報についてか」

「そういうこと。わたしたちは《ファルシオン》の情報を知りたいの。教えてくれたら、わたしたちが入手した《コウライ》と《ベベル》の情報を教えてあげるわ。わたしが審判をしてる最中、仲間たちが二校の訓練風景を偵察してきてくれたものよ」

「せっかくだから、お願いするよ。つつてもま、俺が説明できるのは《ファルシオン》のノエルぐらいなもんだけどな。そつちが二校教えてくれるのに、こつちが一校じゃ釣り合わねーな」

「主よ。私は《メルキア》の代表小隊についてなら説明できます」

結局、カナタたちも二校分の情報を提供することにした。

「ほら、そのこのテーブルに仏頂面ぶつちようづらで背が小さい奴がいるだろ。あれが《ファルシオン》の隊長——ノエル・ル・サンスーシ・デア・ランシール・ド・ワーフ。短期留学で《ミストガン》に来たときに、俺がお世話係を担当した。特徴はだな、性格は短気で熱くなりやすいけど、戦いの場面ではここぞというときにクールな分析力ぶんせきがあつて——」

カナタが説明をしたあと、ブレアが《メルキア》について説明した。

その見返りとして、ミーナもきちんと説明してくれた。